

## 令和3（2021）年度 相愛中学校・高等学校「学校評価」

### 1. めざす学校像

相愛中学校・高等学校の教育の柱は、仏教とくに浄土真宗のみ教えに根ざした女子教育であり、130年をこえる歴史を経ても、建学の精神である『當相敬愛』を見失うことなく、自利利他と共生の思い、知性と教養、品格を備えた女性を育成し、社会に多くの有為な人材を輩出してきた。しかしながら、ますます激化する私学間競争に生き残り、本校が発展的に存続していくためには、他校にはない独自性を社会および本校のステークホルダーに対して魅力的に発信し、信頼を獲得していくことも必要である。

昨今、少子化問題、超高齢化問題など、社会を取り巻くさまざまな課題が取りあげられているなかで、インターネットの普及や AI の発展など、社会構造のグローバル化がますます加速化し、人の社会的関係性、役割など私たちの身近な環境が大きく変化しつつある。これからの社会においては、人と人とのつながりに“響感”する豊かな感受性を原動力として、新たな社会を創造し、その形成に主体的行動力をもって寄与していく女性の活躍がますます求められていくことは間違いない。長年にわたり、女子教育を担ってきた本校だからこそ、次世代のグローバル社会を見据え、キャリアデザイン能力を伸ばす女子教育の重要性をあらためて感じている。

このことを踏まえ、今後の教育ビジョンとして、『當相敬愛』の精神に根ざした「自利利他」と「共生」という仏教の教えの本質を主体的に、そしてアクティブに探求することのできる学びと実践の環境を拡充、発展させていくことで、次世代の社会的ニーズに適合する「グローバル社会に貢献する女子のキャリアデザイン」の推進を図り、これを本校の特色ある教育活動として確立することをめざす。

### 2. 中期目標

本校の教育ビジョンを明確にすべく 2018 年度当初、「相愛中学校・高等学校第 1 次将来構想～その方針と推進方法」を土台として、具体的な教育ビジョンの策定に取りかかるべく、将来構想委員会をスタートさせ、2019 年に第 1 次将来構想を策定した。第 1 次将来構想の策定にあたっては、これからの社会に求められる人物像をいかに捉え、どのようにその育成を図るかという点に重点を置き、当面（約 5 年間）取り組むべき課題について取りまとめた。今後の教育活動の方向性としては、2015 年に国連サミットにおいて採択、スタートした国連グローバル・コンパクト（UNGC）の取り組みに基づいた「持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）」の推進を、建学の精神の具現化を図る中期的な達成目標と位置づけ、その達成に向けた探求学習、課外行事などの活動内容を具体化させていくものである。

また、第 1 次将来構想では、以下に挙げる教育面の主な改革テーマに関して、具体的なビジョンを 30 項目にわたって示している。

- ・教育の質(1) 建学の精神を具現化する教育活動の再構築
- ・教育の質(2) グローバル社会に貢献する女子のキャリアデザイン
- ・教育力 教育行政の変革をふまえた教育活動の高度化

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析 [2021年12月実施]	学校関係者評価委員会からの意見 [2022年9月14日実施]
<p>○生徒 各質問項目に関する回答の状況は前年度と同じような傾向にある。各項目において、「大変満足している」を+3、「満足している」を+1、「あまり満足していない」を-1、「満足していない」を-3として算出した満足度スコアで見ると、全25項目のすべてにおいて、3年連続で評価が上がった。前年度よりも0.3ポイント以上評価の上がったものとしては、</p> <p>「小テスト・朗読書等の学習効果 (スコア: 1.1→1.4)」 「宿題の量や内容 (スコア: 0.7→1.2)」 「問題対応 (スコア: 0.7→1.0)」 「オンライン授業 (スコア: 0.8→1.4)」</p> <p>など、学習指導に関する項目や教員対応が中心となっている。今後も継続して教育内容の充実や生徒、家庭との連絡を密にし、評価を向上させることが求められる。</p> <p>○保護者 過去5年間、各項目に関する回答状況はほぼ同じであり「礼儀・服装・協力姿勢育成指導 (スコア1.4)」と「感染症対策 (スコア1.4)」、「家庭での学校の話 (スコア1.4)」が前年度からの横ばい、「丁寧でわかりやすい授業 (スコア0.6→0.5)」が評価を下げたが、それ以外はすべて昨年度よりも改善が見られた。ただし、生徒の評価に比べて各項目の評価ポイントは低い状況である。今後もすべての評価項目に関して、保護者の学校満足度を上げるためにも一層の改善が必要である。</p> <p>○教員 各項目のうち、「学校行事の充実 (スコア1.3→1.5)」と「感染症対策 (スコア1.2→1.5)」、「礼儀・服装・協力姿勢育成指導 (スコア1.5→1.4)」、「通信や文書 (スコア1.1→1.3)」、「情報提供 (スコア1.6→1.8)」、「オンライン授業 (スコア0.2→1.2)」、「説明会・懇談の充実 (スコア0.2→0.8)」については昨年度よりも評価ポイントは上がったが、これら以外の項目においては、前年度よりも評価が下がる結果となった。評価が下降した項目の具体的理由については今後精査が必要である。</p> <p>○全体として 「生徒・保護者・教員」の三者比較ではそれぞれの評価に乖離がみられる項目が多く、その原因が何であるかを探り、教育の内部質保証を確保するとともに、生徒や保護者の学校満足度を向上させていく必要がある。</p>	<p>(アンケート全体に関して) 保護者・生徒の評価は右肩上がりになり、実感している。反対に先生の評価は下がり気味になっており心配、学校としてケアをしてもらいたい。 子供は家庭で学校の話をよくしており、満足していると思う。</p> <p>子供たちは今いる環境がすべてであり、他の学校施設や相談の環境などはわからない。それを知っている保護者や教員と生徒の間では、評価に乖離があるように感じる。生徒にとっての高校3年間は進路を決める上でとても大切なので、学校生活が充実するように対応してもらえたらと思う。生徒の間で学校や生徒に対する不信感を持っているものもいるので、ケアが必要だと思う。</p> <p>宗教行事など相愛の特徴が出ているものは評価が高いが、学習面では評価が低いのが気になる。</p> <p>(教員相談) 中学2年生の評価がマイナスになっているのが気になる。</p> <p>中学から高校にかけては思春期であるため、担任教員以外にも相談できるのか、第三者が入って対応してくれる状況なのかが気になる。</p> <p>(小テスト・朝読書等の学習効果) 生徒・保護者・教員の評価の乖離が気になるが、勉強の習慣になるので、継続して頂いた方が良いと思う。</p> <p>(施設・設備) 先生の評価が低いのはなぜか?</p> <p>(丁寧で分かりやすい授業) 生徒の評価が一番高く、保護者と教員の評価に差が出ているが、教員は丁寧でわかりやすい授業を心がけている表れだと思う。生徒の評価も決して低くない。</p> <p>(小テスト・朝読書等の学習効果) 先生が行っているテストなのにもかかわらず、先生の評価がとても低いのが不思議である。</p>

3. 本年度の取り組み内容および自己評価

今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 将来構想の推進	2019年5月策定の「第1次将来構想」に基づき、「将来構想委員会」を計画的に開催（週1回）し、各部署が作成した「実施すべき活動にかかる計画書」の検証を継続。	<p>将来構想委員会を定期的に開催しているか：</p> <p>1. 「将来構想委員会」を年度当初より計画的に開催できたか。</p> <p>2. 各種活動が実行できたか</p>	<p>目的や活動の明確化については将来構想委員会において推進を継続できている。</p> <p>1. コロナ禍において、途中、不定期となったが、継続的に開催することができた。</p> <p>2. 「実施すべき活動にかかる計画書」において掲げられた102の実施項目のうち、約7割に及ぶ74の項目を実施するに至った。</p>
2. SDGsに向けた取り組み	SDGsに向けた探究学習や課外活動、国際交流を通じた質の高い教育を推進する。	SDGsをコンセプトにした探究学習を各学年で定期的実施できたか。	<p>中1～高3まで全学的に探究学習を計画的に実施。</p> <p>〈一例〉                      企業（教育と探究社）が開発した課題解決アクティブラーニング・プログラム「ソーシャルチェンジ」に取組み、身近な社会課題とSDGsをテーマに、その解決法を探究していくことで、地域や社会を動かし、貢献していく力の育成をはかった。</p> <p>全国の龍谷総合学園加盟校の高校2年生を対象とした宗門校ならではのアクティブラーニング夏期交流プログラム「仏教×SDGs」への参加に向けた、グループワークとプレゼンテーションを、全クラスの生徒たちに取り組ませることで、「自利利他」と「共生」の精神に基づく自己内省と他者への敬愛の心に裏付けられた協働性を育成した。</p> <p>校外活動では、2019（令和元）年6月に 大阪国際平和センター（ピースおおさか）との間で締結した平和教育に関する連携協定をもとに、高等学校音楽科の生徒たちが、同センターが主催する「終戦の日戦争犠牲者追悼式」平和コンサートに出演協力した。</p>

<p>3. 建学の精神の具現化に関する事項</p>	<p>法要や宗教教育研修会の実施を始めとする宗教教育の充実を図る。</p>	<p>宗教教育に関する各種研修会を年間行事として年1回実施できたか。</p> <p>また、宗教教育の一環としての各種法要を定期的に実施できたか。</p>	<p>保護者および教職員を対象とした宗教教育研修会を年間行事に組入れ実施。</p> <p>〈一例〉</p> <p>SDGsへの取り組みの一環として、「おてらおやつクラブ」代表の松島靖朗先生を招き、おてらおやつクラブが行っている支援活動を通じて貧困問題への取り組みについて講演いただいた。他の法要に関しても、年間行事として定期的に実施することができ、本校の宗教教育にふれる機会の充実をはかった。</p> <p>法要後に全生徒に法話感想文を提出させ、それらを取りまとめた冊子『響流十方』（第8号）を発行した。</p> <p>千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要にかかわる募集作文選考において、2年連続最優秀作品に選出、全国児童生徒作品展においては、特選1名、入選1名、佳作5名が選出されるなど、情操教育としての一定の成果と評価を得ることができた。</p>
---------------------------	---------------------------------------	--	---

<p>4. 教育活動の展開と充実に関する事項</p>	<p>(1) 教育活動の高度化</p> <p>① 中学校</p> <p>② 高等学校</p> <p>(ア) 教育課程（カリキュラム）の改訂</p> <p>(イ) 特進コース 進学実績を積み上げるための仕組みづくりの強化</p> <p>(ウ) 専攻選択コース 「学び直し」を主眼に置いた学習のシステム化と大学入試への対応</p> <p>(エ) 音楽科 学力向上の土壌形成。</p>	<p>教育内容の高度化が実現できたか。</p> <p>教育課程の改訂ができたか？</p> <p>具体的な方策ができたか。</p> <p>具体的な方策ができたか。</p> <p>具体的な活動ができたか。</p>	<p>コースの特色を明確に打ち出し、公立中学校との差別化を図るため、旧カリキュラムの「総合的な学習の時間」で実施していた各コース特有の教科を、新カリキュラム「学校設定教科」として実施した。具体的には、特進コースでは国語と数学の演習を目的とした教科を設定し、高校特進コースに進学するための教育レベルの底上げを行った。進学コースでは、資格取得可能な伝統文化（茶道・華道・着付け）の授業を通じて知的感性を磨いた。音楽科進学コースでは、音楽基礎科目を学ぶことで音楽の専門的な素養を培った。あわせて、旧カリキュラムでは個々の教科については文章評価のみとしていたが、新カリキュラムでは100点法と5段階評定による評価をおこなうことで、生徒へのフィードバックを明確化し、基礎学力・能力の向上をめざした。</p> <p>新しい学習指導要領に基づく教育課程を改訂することができた。</p> <p>各種模擬試験の後に、関係教科・学年教員による模試分析会を行い、今後の教科指導・進路指導に関する方向性を共有した。</p> <p>外部テストを「学び直し」に主眼を置いたものに切り替え、リクルート社による「到達度テスト」を年2回実施し、同社の学習支援アプリ「スタディサプリ」での動画講義において学び直しや応用学習につなげることで学習のシステム化をはかった。また学校推薦型選抜入試を利用する生徒が多数いる一方、専攻選択の選択科目制度を活用し、大学入試に必要な科目の学力を向上させることで、2022年度入試においては旧公募推薦制度で近畿大学、薬学部、歯学部への合格者も輩出するなど、生徒のニーズを満たした進学が実現しており、一定の教育効果が表れている。</p> <p>特進コース開講授業の受講可能制度、オンライン英会話継続により学力向上の土壌を形成することにより、公立大学合格者を輩出できた。</p>
----------------------------	---	--	---

<p>4. 教育活動の展開と充実に関する事項（続き）</p>	<p>（2）特色ある探究学習の展開</p> <p>SDG s の推進をコンセプトとし、特色ある探究学習を展開する。</p>	<p>各学年において特色ある探究学習が展開できたか。</p>	<p>中学1年： 「校外学習のプラン」をテーマにするなど、探究学習の基礎力を強化し、他者と協働するためのコミュニケーション力を培った。また、教科学習の成果と地域社会を結びつける練習として、防災施設の見学もおこなった。</p> <p>中学2年： 探究学習の主軸の一つである「答えのない問い」に取り組む力を向上させるため、「理想の制カバン」という身近なテーマに基づき、協働して答えを探究し発表する活動をおこなった。また、平和教育の一環として情報収集・発信力を強化するため、「ピースおおさか」への見学をふまえた文化祭での発表をおこなった。</p> <p>中学3年： 課題を発見し解決していくための自己管理能力・課題対応能力・課題対応能力、キャリアデザイン能力を習得させるため、持続可能な開発目標・SDG s のターゲット4「質の高い教育をみんなへ」をふまえ、「ジェンダー」をテーマに自己の生活環境・人権意識を見直す機会をもった。</p> <p>高校1年： 中学3年とともに、(株)教育と探求社のプログラム「ソーシャルチェンジ」を活用し、「困っている人を見つけ、主体的に学ぶ力、社会課題を発見する力、実社会で使えるコミュニケーション力の向上を図るとともに、生徒の自己肯定感と自信を高めることができた。</p> <p>高校2年： 「仏教とSDG s」をテーマに探究学習を実施し、代表生徒2名が8月に実施された全国の龍谷総合学園加盟校の高校2年生を対象とした夏期交流プログラム「仏教×SDG s」に参加した。そこでは「ジェンダー」「多様性」をテーマに、社会における「LGBTQ」への理解が十分ではないことを課題として捉え、リーフレットを作成し、次年度の高校2年の探究学習に関する資料とするなど、校内への周知と啓蒙へとつなげた。</p>
--------------------------------	---	--------------------------------	---

<p>4. 教育活動の展開と充実に関する事項（続き）</p>	<p>（2）特色ある探究学習の展開（続き）</p>	<p>各学年において特色ある探究学習が展開できたか。（続き）</p>	<p>高校3年： 「仕事について知る」をテーマに、大阪ガス株式会社や株式会社三井住友銀行をはじめとする企業の担当者に訪問いただき、それぞれの会社の仕事やSDGsへの取組み等に関する講義を受講したほか、「企業ミュージアム」への訪問等を通して、生徒自らのキャリアデザインへとつなげることができた。</p>
<p>4. 教育活動の展開と充実に関する事項（続き）</p>	<p>（3）ICT活用に関する学習の取組み</p>	<p>具体的な取り組みができたか。</p>	<p>(a) 中学校・高校1年に整備した一人一台のタブレット端末の活用。 (b) 中学校「数学」「理科」におけるデジタル教科書の導入・活用。 (c) 普通教室に整備した大型ディスプレイ、移動式プロジェクターを活用した授業。 (d) 教室内Wi-Fi環境とタブレット端末を活用した効果的な教材提示、オンライン英会話、探究学習やホームルーム活動、学校行事などにおける生徒自身によるプレゼンテーションの実施。 (e) 「Microsoft365」の「Teams」アプリを利用したオンライン授業の充実、および新型コロナ対応とし在宅生徒への学習保障。式典や法要などの教室・家庭への配信。 (f) リクルート社Web学習アプリ「スタディサプリ」の効果的活用による、学びなおし、先取り学習などの推進、ポートフォリオ機能を活用しての学習の記録、生徒へのアンケート機能にもとづく効果的な指導。 (g) オンライン英会話を高校普通科・専攻選択コースでも導入し、特進コース・音楽科も含めた高校全クラスでの実施。</p>

<p>5. 進路指導に関する事項</p>	<p>(1) 各コースにおける進路指導の展開</p> <p>①高校普通科特進コース</p> <p>生徒個々の学習状況やレベルに応じた指導を徹底し、国公立大学や難関私立大学の合格率向上につなげる。</p> <p>②高校普通科専攻選択コース</p> <p>生徒が希望する幅広い進路に応じて選択科目を履修できるカリキュラムで、大学合格率の向上をめざす。</p> <p>(2) 進路ガイダンスの充実</p> <p>(3) 相愛大学への進学率の向上</p>	<p>大学合格率の向上</p> <p>大学合格率の向上</p> <p>日々の指導に加えて個別指導を強化できたか。</p> <p>コース担当教員による情報共有と指導スキルアップができたか。</p> <p>進路ガイダンスの実施充実ができたか。</p> <p>相愛大学への進学率の改善（高校3年在籍数の25%を目標）</p>	<p>国公立大学合格者数は、2019（令和元）年度2名（在籍11名）、2020（令和2）年度1名（在籍11名）から、2021（令和3）年度は大阪大学や大阪公立大学を含む3名（在籍9名）となり、難関国公立大学合格という結果を残すことができた。私立大学に関しても、10年前と比較すると毎年安定した成果を出すことができており、難関私立大学合格数が中堅私立大学合格数を初めて上回った。</p> <p>生徒一人一人の進路に対応した選択授業を展開し、成績上位層に関しても各学年団と進路指導部が協力し合い、生徒の希望進路に寄り添った指導を実施している。その結果、2019（令和元）年度のコース発足以来初の国公立大学合格者輩出を皮切りに、2020（令和2）年度に引き続き2021（令和3）年度においても、関関同立や産近甲龍などの難関私立大学で、推薦入試ではなく、総合型・一般選抜においての合格者数を増やすことができた。</p> <p>放課後における進路指導自習室での個別指導を強化してきた。</p> <p>リクルート社の学習支援アプリ「スタディサプリ」を含む事前事後指導に注力することで、ガイダンス単発で終わることのない指導を行った。また中学校の進路ガイダンスにおいても、中学2年で「生涯設計と進学について」をテーマに2回実施することで生徒のより深い理解へと結びつけたほか、新たに中学1年において「契約とお金」をテーマに1回実施することで、中学3か年を通しての進路指導を確立することができた。</p> <p>音楽科： 本ほぼ例年半数以上を維持しており（平成29年度60%、平成30年度54%、令和元年度65%）、2020（令和2）年度47%、2021（令和3）年度53%）、高水準を維持している。</p> <p>専攻選択コースは過去において一桁台を低迷していたが（平成27年度7%、平成28年度4%、平成29年度11%、平成30年度8%、令和元年度15%、2020（令和2）年度19%）、</p>
----------------------	---	---	--

5. 進路指導に関する事項（続き）	（3）相愛大学への進学率の向上	相愛大学への進学率の改善（高校3年在籍数の25%を目標）（続き）	2021（令和3）年度は14%と徐々に一定の成果が見えており、相愛大学と本校で行われている高大連携協議会の強化にもより、高校在籍数が減少する中でも全体としては進学率約25%を維持している。
6. 生徒指導に関する事項	<p>（1）生徒対象 安全かつ健康な生活を目的としたサポート・指導のための講演会の実施</p> <p>① ネットリテラシー ② 思春期教育 ③ 歯科等健康に関する教育 ④ 交通安全に関する教育</p> <p>（2）教職員対象 ① 「救命講習」 ② 「カウンセリング研修会」 ③ 「学外の公的協議会への参加」</p>	<p>具体的な講演会等が実施できたか</p> <p>効果がえられたか</p>	<p>（1）生徒対象 以下の講演会を実施</p> <p>① 「ネットリテラシー講演」 ② 「思春期教育」 ③ 「歯科等健康に関する教育」 歯に対する本校生徒の未処置の割合が減少傾向にあり、活動に一定の効果がみられた。 ④ 「交通安全に関する教育」 ⑤ 「避難訓練」 大阪市中央消防署の助言・協力のもと、従来行ってきた経路の確認と避難場所への移動だけではなく、消火活動のため一部の教員が出火場所へ向かい、初期消火活動訓練をすることで、より実践的なものとした。また、コロナ禍を考慮して、学年ごとの実施とした。</p> <p>（2）教職員対象</p> <p>① 「救命講習」 大阪市中央消防署の協力のもと、AED使用・人工呼吸・心臓マッサージの動画を視聴することで、救急救命の対応に備えた。</p> <p>② 「カウンセリング研修会」 本校スクールカウンセラー（2名）による生徒へのアプローチ方法などに関する専門的な研修を実施し、教員の指導力・対応力のさらなる向上をはかった。</p> <p>③ 「学外の公的協議会への参加」 東警察署・天王寺警察署管内の私立・国立中学校10校による学警連絡会においては、今年度当番校として取りまとめを行い、本校の生徒指導につなげた。</p>

<p>7. 入試広報・生徒募集に関する事項</p>	<p>(1) 広報活動の高度化 各種広報媒体を用いた広報活動、オープンスクール、学校訪問、ブース説明会等の生徒募集イベントの充実</p>	<p>イベント参加者数の増加ができたか</p>	<p>① 入試広報イベントの充実 オープンスクールでは動画コンテンツを利用した教育理念の紹介や、受験生目線に立った魅力的かつSDGsや探究学習に関する体験学習等、本校独自の教育内容が受験生に伝わるプログラムを企画、実施。</p> <p>本校 Youtube チャンネルにて作成、投稿された様々な動画を各種説明会で見せながら紹介するなど、本校独自の教育内容の周知を図るための新たな企画を検討、実施した。</p> <p>② 情報発信の強化 各種 WEB サイト上の Yahoo バナー広告や、大阪メトロ駅構内のポスター広告、さらには SNS 「Twitter」のプロモーション広告などにより、知名度の向上をはかった。</p> <p>公式ホームページをリニューアルし、メニューや導線が整理され知りたい情報を得やすく、かつ動的で「魅せる」デザインとし、教育内容の発信や入試情報の提供を積極的に行えるようにした。</p> <p>学校周辺を通行するビジネスパーソンに対して本校のイベントや教育活動を広報すべく、夜間でもポスター類を明るく鮮明に掲示できる LED 照明サイネージを、南門掲示板内に設置。</p> <p>SNS 「LINE アカウント」を継続活用し、本校への接触者に対する様々な入試イベント情報の発信を随時行い、出願・入学へとつなげた。また、さらなる知名度・認知度の向上を目的として、受験生だけでなく保護者世代の利用率も高く、情報検索ツールとしても活用されている公式「Instagram」を新たに開設・導入した。</p>
---------------------------	--	-------------------------	--